

岩手医科大学報

IWATE MEDICAL UNIVERSITY NEWS

2022. 5

No. **541**

主な内容

巻頭言—— 医学部長再任挨拶
附属病院長再任挨拶
内丸メディカルセンター長再任挨拶
岩手県高度救命救急センター長就任挨拶
事務局長就任挨拶

特集—— 感染症対策センター竣工

令和4年度事業計画

トピックス—— 岩手医科大学入学式が挙行されました

募金状況報告

表紙写真：矢巾キャンパス桜満開

医学部長再任挨拶

医学部長 ^{さ さ き ま こと} 佐々木 真理

(超高磁場MRI診断・病態研究部門 教授)



この度、4月1日付けをもって医学部長に再任いただきました。職責の重さを改めて実感するとともに身の引き締まる思いです。

本学教職員の皆様には一期目の3年間にわたり多方面にわたるお力添えとご指導を賜り心より御礼申し上げます。おかげ様をもちまして、医師国家試験合格率向上や大学院改革などの喫緊の諸課題において一定の成果が上がりつつあります。また、長期化するコロナ禍の中、種々の感染予防策を講じながら対面を原則としたカリキュラムを概ね予定通り実施することができました。これはまさに教職員の皆様が一丸となり総力戦で取り組まれた結果であり、関係各位のご奮闘に深く感謝申し上げます。中でも、医学部教授会、教務委員会、学修支援委員会、各種委員会の諸先生方の並々なぬご尽力に衷心より敬意を表します。

今後も、国試合格率の安定化と留年率の減少を目指し、機関別認証評価・医学教育分野別評価を睨んだカリキュラムの改変、進級試験のさらなる適正化、学修支援プログラムのさらなる充実化、共用試験公的化への対応などを進めていく必要があります。また、

全学教育推進機構・他学部・学外の先生方のお力をお借りし、充実した多職種連携教育や地域医療実習などを通して医療人としての豊かな人間性を涵養していくことも重要です。

卒後教育に関しては、本学附属病院を含め県内医療機関の臨床研修医数の減少、医学研究科入学者の減少などの問題が浮き彫りとなっています。また、小笠原病院長・下沖センター長の陣頭指揮の下、矢巾附属病院・内丸メディカルセンターの大幅増収が達成されるなど全学的な経営改善の取り組みにより大学の経営状況は改善しつつあるものの、外的資金の獲得などにさらなる工夫と努力が必要です。一方で、医師の働き方改革への対応をふくめ、教職員の業務の効率化や負担軽減にも取り組んでいかねばなりません。

未だ課題山積の状況ではありますが、微力ながら全力で職責を果たす所存ですので、今後とも教職員の皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。再任の挨拶とさせていただきます。



附属病院長再任挨拶

附属病院長 ^{お が さ わ ら く に あ き} 小笠原 邦昭

(脳神経外科学講座 教授)

皆様には平素お世話になっております。今般、再任され今後3年間附属病院長を務めることになりました小笠原でございます。これまで4年間附属病院長を務めてまいりましたが、さらに3年ということで多少めまいがしますがよろしく願いいたします。さて、この4年間においては、「病院移転と矢巾・内丸2病院体制構築」、「附属病院機能評価受審」、「コロナ禍での診療」という3つのビックイベントがありました。3番目は現在もまっただ中にいますが、「病院移転と矢巾・内丸2病院体制構築」、「附属病院機能評価受審」も含めて、職員全員の御協力と御努力で何とか乗り切っていると感じております。

4年前の病院長就任時に掲げたモットーは「情報公開」、「現場主義」でした。さらにこれらを基盤とした「聖域なき改革」でした。また、3年前の挨拶では、「日常の病院業務で私が最も重要視しているのは、「医療安全」と「患者さんからの声」です。」と述べました。この考えは今も全く変わりません。一方で病院職員の関心事は収益が最大のものであることは疑う余地がありません。しかし、私は「新患者を増やしていただきたい」とはお願いしましたが、「金を儲けろ」とは直接お願いしたことはありません。ハ

ラスメントも含む病院職員の働く現場の環境をよくすれば、現場の職員は一生懸命働いていただけます。また、患者さんに安全でいい医療を提供し、患者さんのみならず紹介していただく医療機関への接遇を改善すれば、自然と来院していただける患者さんが増えます。それらは最終的には病院の収益に繋がります。今後この考え方で、病院運営を行っていこうと思います。

さて、現在の矢巾附属病院のキャパシティおよびアクセスを考慮すると、今後急激に新患者を増やすことは困難であることも事実です。そこで、ポイントは内丸メディカルセンターの運用です。内丸メディカルセンターは盛岡市の一等地にあります。下沖センター長をはじめ内丸メディカルセンターのスタッフが種々工夫をして、病院運営を改善し、それが患者獲得に繋がっております。しかし、内丸メディカルセンターの今後の具体的な将来像はまだ描けていません。今後、矢巾附属病院と内丸メディカルセンターの職員が一体となって、内丸メディカルセンター運用の将来像を具体的にすることが必要と考えております。

皆様におかれましては、ご協力のほど、お願申し上げます。

附属内丸メディカルセンター長再任挨拶

しも おき おさむ
附属内丸メディカルセンター長 下沖 収 (総合診療医学講座 教授)



この度、岩手医科大学附属内丸メディカルセンター長を拝命いたしました。大学報の紙面をお借りし、ご挨拶を申し上げます。

当センターは、岩手医科大学 120 有余年の歴史が刻まれた盛岡市内丸の地に、新附属病院の移転とともに、新たな医療機関として開設されました。旧附属病院施設を利用しているとはいえ、まだまだ発展途上にあります。「大学病院の外来機能」に加え、「地域医療の拠点」として、ますますの成長と成熟が求められるものと考えております。

現在、当センターは内科 22 科、歯科 10 科で診療を行っております。歯科医療センターは高レベルの地域歯科医療を提供しており、また睡眠医療センター、リプロダクションセンター、肥満症外科治療センターでは専門性の高い医療を多部門連携で提供しております。診療体制の充実、地域の皆様からの強い要望でもありますので、附属病院とともに、継続して取り組んで参ります。

新型コロナウイルス感染症に対しては、附属病院や医師会との連

携のもと、PCR 検査体制、入院受入れ、ワクチン接種事業などに対応して参りました。求められる医療に、真摯にお応えすることで、住民や地域からの信頼が得られるものと考えております。また、今年度の病院機能評価受審を控え、患者さんに選ばれる病院を目指し、日々の改善活動を進めております。同時に、働く職員の負担軽減とやりがいある職場づくりも、最重要課題の 1 つとして取り組んで参りたいと思います。

「新生 内丸メディカルセンター」の建設は少し先ではありますが、超少子高齢社会の中で、あるべき姿についてしっかり考え、計画する段階に来ております。岩手県の医療提供体制における役割を確固たるものとし、将来へとつなげていくために、微力ながら全力で職責を果たす所存でございます。なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

岩手県高度救命救急センター長就任挨拶

ま せ とも ひこ
岩手県高度救命救急センター長 眞瀬 智彦 (救急・災害医学講座 教授)



この度 2022 年 4 月 1 日付けをもちまして、井上義博先生の後任として岩手県高度救命救急センター長を拝命致しました。救急・災害医学講座の眞瀬智彦です。どうぞよろしくお願い致します。

当センターは、1980 年に岩手県と岩手医科大学が官民共同の救急センターとして開設されました。1996 年には広範囲熱傷・中毒等の特殊疾患を受け入れる当時全国で 7 番目の高度救命救急センターとなり、北海道・東北で最初の認定となりました。2012 年からはドクターヘリの運航を開始しております。現場で医療を提供することにより早期の初期診断・治療、医療機関の適切な選定、搬送時間の短縮等重症者の救命率向上を目指しております。2019 年 9 月の附属病院移転に伴い、ヘリポートと高度救命救急センターが直結したことで、利便性が向上し、より一層の効果が期待されます。

現在、新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い、救急医療の現場はますます疲弊しつつあります。このような中で救急医の育成は急務であ

り重要なことと考えます。多くの疾患が集まる当施設で多くの学生・研修医をはじめ医療者が学べる環境を整えていきたいと思っております。

県内唯一の高度救命救急センターとして、2 次救急医療機関を含めた地域との連携、県や消防など行政・他機関との協力は必要不可欠であり、他機関、多職種との「連携」をより強固なものとし、岩手県・北東北の救急医療がより良い体制になるよう尽力して参ります。

病院移転に伴う 3 次救急外来の一本化により大学病院運営に対して高度救命救急センターの果たす役割はより重要なものとなっております。高度救命救急センター、大学病院および地域の救急医療のさらなる発展のため微力ではありますが尽力したいと考えております。皆様のご支援とご協力をよろしくお願い致します。

事務局長就任挨拶

やま もと かず ひろ
事務局長 山本 和博



このたび事務局長を拝命し、重責に身の引き締まる思いでございます。浅学非才の身でありますので、ご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

さて、本学は今年度創立 125 周年を迎えた全国屈指の歴史を誇る医療系大学ですが、近年全国の大学を取りまく環境は厳しさを増し、昨年の日本私立学校振興・共済事業団の志願者動向調査によると定員割れとなった私立大学は実に 46%にも及ぶとの報告があり、本学でも一部同様の状況が生じております。

一方、本学附属病院は 2019 年 9 月矢巾へ移転、併せて内丸メディカルセンターを開院し、二病院体制となりましたが、その後新型コロナウイルスが発生し、受診控え等により医療収入が落ち込み、経営を圧迫しました。これにより、内丸地区整備計画を推進するための積立は 2 年前から凍結したままとなっており、現在資金の確保、二病院体制に見合った収支の均衡等に向け、経営改善を実施中ですが、昨年から続く原油の高騰に加え、ロシアによるウクライナへの軍事進攻に起因した物価への影響、質の悪い円安など、大学にとって予断を許さない状況が続いております。

事務局では、これまでも高橋真前事務局長の下、鋭意改革に取り組み、昨年度は企画調整課内に業務改善推進係を新設、デジタルトランスフォーメーションの推進により、業務の効率化を図ることでクリエイティブな業

務に専念できる環境の整備に努めるとともに、今年度は病院事務部内に病院情報管理課を新設し、患者動態の分析を踏まえた新患の獲得、診療報酬の削減対策等々、戦略的に病院の増益に繋げることをしております。また、2017 年の大学設置基準改正では、「教職協働」の考え方が条文に盛り込まれるなど事務職の役割は益々重要となっていることから、職員個々の能力や意欲の向上と事務局全体の組織力向上を企図した人材育成基本方針を一昨年 4 月に策定し、職員が自ら描いたキャリアデザインを踏まえ、意欲的に業務を遂行できるよう、対話を重視した人事制度を導入、入職後 10 年程度で法人事務、学務、病院事務の 3 つの職系をジョブローテーションさせることとしました。当該期間において、主体的に取り組み、視野を広げ、多くの果実を得られるよう指導を行いながら、将来を担う職員の育成に努めております。

ご承知のとおり、本学の学則第一条には「誠の人間の育成」を謳っております。そのためには我々事務職自身も範を示していく必要があるかと思っております。今後とも事務局の取組につきまして、ご理解、ご指導賜りますようお願い申し上げます。

特集



感染症対策センター竣工

本年3月に完成を迎えた感染症対策センター。本稿では、当センターの役割や落成セレモニー及び運用開始に向けた予行演習の様子について紹介します。

感染症対策センター

令和3年11月に着工した感染症対策センター新築工事は、令和4年3月に完成を迎えました。

この施設は、新型コロナウイルス感染症重症患者受け入れ専用施設として附属病院敷地内に整備されました。本学附属病院では従来、コロナ重症患者をICU内の陰圧個室2室を中心に受け入れを行っていましたが、当該個室以外の病室は開放的に創られていることから、2名以上のコロナ重症患者を収容すると、ICU全体が使用できなくなり、がん、脳卒中、心臓病その他のコロナ以外の高度医療を要する手術がストップし、高度医療の提供に支障が出ていました。そのため、附属病院とは別棟に本施設を整備することで、附属病院が担う高度医療の提供とコロナ重症患者治療の両立を図りました。



本施設は、コロナ重症患者の集中治療を念頭に、陰圧管理される病床6床に、人工呼吸器やECMO（人工心肺装置）といった生命維持管理装置を整備した他、CT撮影装置を設置することにより、的確な診断の下、コロナ重症患者への迅速かつ万全な治療を提供することを可能としています。また、新型コロナウイルス感染症が終息した後も、新興感染症対応の他、広範な感染症対策に資する施設として継続的に活用することとしています。

概要

工事概要	期 間	令和3年11月15日～令和4年3月31日
	構 造	軽量鉄骨造地上1階
	面 積	579.96㎡
建物概要	病 床	6床（全室陰圧管理） ・人工呼吸器 ・ECMO（人工心肺装置）
	機 能	CT撮影室（16列CT撮影装置）、診察室2室、衛生処理室、感染性廃棄物室、スタッフステーション

落成セレモニー

令和4年4月15日（金）、附属病院の敷地内に新設された感染症対策センターの玄関前において、落成セレモニーが挙行されました。当日は、雨天のためテント内となりましたが、小川理事長をはじめとした大学関係者や岩手県、矢巾町、施工業者等、約30名が出席し、華やかに執り行われました。セレモニー終了後、ご出席いただいた方々を対象に当センターの内覧会が行われました。



落成セレモニー・テープカット
写真左から

- 祖父江学長
- 小原紀彰岩手県医師会長
- 八重樫幸治岩手県副知事
（岩手県知事代理）
- 小川理事長
- 小笠原附属病院長



祝辞
(岩手県知事：代理 八重樫幸治岩手県副知事)



施主挨拶
(小川理事長)



参列者

内覧会

小川理事長がアテンドし、セレモニーにご出席された大学関係者、来賓の方々の内覧会が行われました。



病棟見学



患者搬送口



病室



CT 撮影室

予行演習

4月23日（土）、運用上のルールの確認、問題点の抽出を目的に予行演習を実施し、本センターの業務に携わる医師・看護師・放射線技師等、約100名が参加しました。

新型コロナウイルス感染症患者の容体が急変し他院から当院へ搬送されるケース等、様々な想定の下行われ、本番さながらの予行演習となり、運用体制への理解を深める貴重な機会となりました。予行演習終了後にはアンケートを回収し、今回判明した課題の改善を図り、4月25日（月）の運用開始に向け準備を進めました。



全体ミーティング



グループ演習（スタッフステーション内）



患者搬送（ストレッチャー）



患者搬送（アイソレータ付車椅子）

お知らせ ビジネスカジュアルデーが導入されました

本学では、環境への取組みの一環として、以前よりクールビズを実施していましたが、このたび、継続的な節電等の実施に加え、組織の活性化及びダイバーシティの推進を目的として、本年4月から事務局事務職員を対象にビジネスカジュアルデーの試行が開始されました。

この取組みは、服装の慣習を見直すことにより、職員一人ひとりが性別に関わらず、自主性を尊重し、より多様性を活かす組織づくりに取り組むことで、働きやすい環境づくりの醸成を図るものです。また、世界的な取組みであるSDGs（持続可能な開発目標）推進の側面もあることから、社会の趨勢を踏まえ、実施する試みとなります。ビジネスカジュアルデー施行日は、各自以下基本原則に配慮し、自ら選択した服装で勤務しています。

■基本原則

- （1）私立医科大学としての公共性及びステークホルダーとの信頼関係を勘案し、TPOに相応しい服装であること
- （2）清潔感・調和性があり、安全衛生上の問題もなく、他者に不快感を与えない服装及び身だしなみであること

■実施日：毎週金曜日と第1・第4土曜日
（本年4月から当面1年間）

■対象：事務局事務職員
（委託職員、各外来受付、病棟クランク等は対象外）



令和3年度 冬季の省エネ活動の実施結果について

職員の皆様方におかれましては、日頃より省エネ活動にご協力をいただきまして誠にありがとうございます。令和3年12月から令和4年3月まで実施しました「冬季の省エネ活動」について、ご報告いたします。

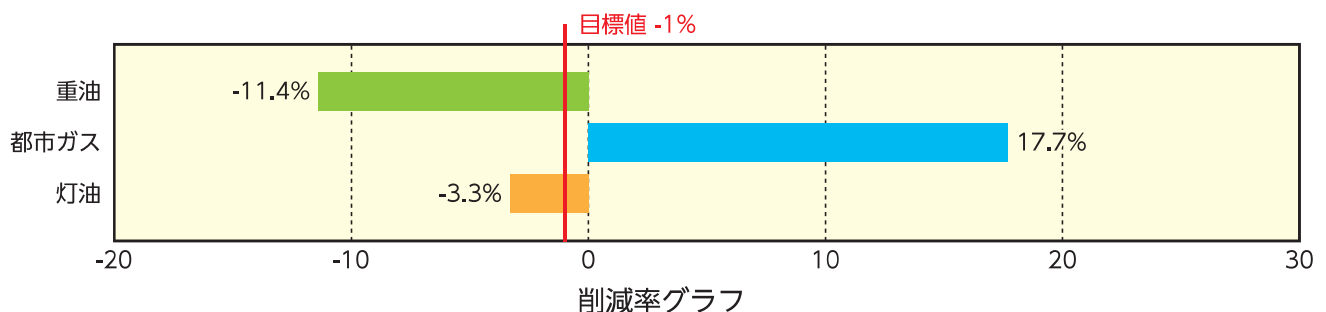
■省エネ活動計画概要

- 【実践期間】 令和3年12月1日～令和4年3月31日
 【削減目標】 暖房用主要燃料の使用量を前年度比1%削減
 【取組】 職員への暖房設定温度23℃遵守の協力要請
 【実践項目】 ①施設課によるパトロール
 ②実施経過の可視化
 ③啓発ポスターの掲示

■省エネ活動実施結果

《結果》 重油並びに灯油の実施期間合計値が目標を達成しました。

燃料種		令和2年度	令和3年度	削減量	削減率
重油		2,453,300 L	2,172,400 L	- 280,900 L	- 11.4%
内 訳	矢巾キャンパス	628,100 L	617,100 L	- 11,000 L	- 23.5%
	附属病院（エネルギーセンター・トクタヴェール含む）	769,800 L	588,600 L	- 181,200 L	- 8.5%
	内丸キャンパス	1,043,000 L	954,700 L	- 88,300 L	- 8.5%
	本町キャンパス	12,400 L	12,000 L	- 400 L	- 3.2%
都市ガス		1,366,500m ³	1,608,800m ³	+ 242,300m ³	+ 17.7%
内 訳	附属病院（エネルギーセンター・トクタヴェール含む）	1,352,300m ³	1,593,600m ³	+ 241,300m ³	+ 17.8%
	やはばなかよし保育園	14,200m ³	15,200m ³	+ 1,000m ³	+ 7.0%
灯油（医療専門学校のみ）		9,100 L	8,800 L	- 300 L	- 3.3%



※削減目標達成のため、熱源機器や空調機の運転時間を細かく調整するなどの対応を行いましたが、外気温度の低下により熱源機器のエネルギー消費が多く、都市ガスについては目標値に届きませんでした。

■省エネ活動の推進

- ①施設課によるパトロールを各施設ごとに隔週で計9回実施しました。
 パトロール等で不要な空調の停止や風量調整を行った箇所は合計716箇所ありました。（不要な照明の消灯なども386箇所行いました。）
 ②実施経過を可視化するため、実施結果を毎月全学へメール発信しました。
 ③啓発ポスターを学内の主要な場所へ掲示し、省エネ活動の取り組みについてお知らせしました。

不要な空調の停止や風量調整

施 設	箇 所
矢巾キャンパス	322
附属病院（エネルギーセンター・トクタヴェール含む）	78
内丸キャンパス	299
本町キャンパス	7
医療専門学校	10
合 計	716

些細なことで構いませんので一人ひとりが省エネを心がけていただき、全体として大きな効果が得られるよう引き続き皆様のご協力をお願いいたします。

事業計画

1. 背景と方針

本法人は、最新の生命科学に対応した教育・研究・診療を実践し、将来の更なる発展のため総合移転整備計画を策定し、開設以来拠点としていた内丸キャンパスから矢巾キャンパスへ大学施設の段階的整備を進め、2019 年度には国内有数の規模を誇る附属病院が竣工、内丸メディカルセンターとともに開院に至り、医療系総合大学の新たな歴史を歩み出した。

本来、2020 年度以降は病院の運営を軌道に乗せ、事業資金を確保しつつ内丸地区整備事業を推進する計画であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大による受診抑制や手術制限等に伴う医療収入の減少が法人経営に大きく影響し、同感染症の先を見通すことが困難な状況から、計画の延期を余儀なくされている。

この苦境を打開するため、医療収入をはじめとする増収策や経費節減等の様々な対策を講じた結果、2021 年度の収支は回復傾向に転じ、経営改善への足掛かりとなる一年となった。しかしながら、附属病院の建設に掛かる借入金の返済も始まる中、今後の最大の目標である内丸メディカルセンター新棟建設並びに内丸跡地の再開発に向けた事業資金の積立てを再開するまでには至らず、また、この間も施設の老朽化は進行し、取壊しが予定される施設に対する修繕工事を実施せざるを得ない状況が続いている。

これを踏まえ、2022 年度も全学を挙げて更なる経営改善の努力を重ね、事業資金を確保し、今後の道筋を確かなものにしていくことが極めて重要である。そして、医療系総合大学として、誠の人間を育成することを第一義に、質の高い教育研究活動を実践し、国家試験合格率の向上、学生の確保、外部資金の獲得等に努める。また、2022 年 4 月には「感染症対策センター」が竣工することから、これを効果的に運用し、県内唯一の特定機能病院として、新型コロナウイルス禍においても高度医療の堅持と地域医療への貢献を果たしていく。

本法人は、私立大学における経営環境が一層厳しさを増す中、安定的な運営を行い、使命を果たしていくために「Vision 2020-2024 学校法人岩手医科大学中期計画」を策定した。その取組・進捗状況については、検証の上、社会情勢や経済状況等を踏まえながら必要に応じ計画の見直しを行い、事業の適切な推進に努めることとしており、2021 年度実施予定事業について検証を行った結果、10 月時点で「計画どおり達成した：26 事業」「計画どおり達成する見通しである：90 事業」「計画どおり達成する見通しが立たない：5 事業」となった。このうち計画どおり達成する見通しが立たない事業は、新型コロナウイルス感染症に起因するものや大学の財政状況等を勘案したことによるものであるため、今般実施時期や規模等計画の一部見直しを行った。以上を踏まえ、中期計画に基づき、2022 年度は以下の事業を実施する。

2. 主要な事業計画

※掲載内容は、「令和 4 (2022) 年度事業計画書」を抜粋したものです。
詳細は、本学ホームページ（情報公開→令和 4 年度）をご覧ください。

1. 創立 120 周年記念事業関係

- ①内丸メディカルセンター新棟建設計画（仮称）の推進
- ②内丸地区跡地活用計画の検討推進
- ③事業活動資金の確保に向けた募金活動の継続実施

2. 教育・研究関係

- ①大学院医学研究科：教育課程の充実と情報公開の推進
- ②大学院歯学研究科：学位授与方針に対応した学位論文審査基準の設定及び学生への事前周知（早期課程修了含む）
- ③医学部：学修支援体制の強化による医師国家試験合格率と進級・卒業率の向上
- ④歯学部：教育課程の充実

- ⑤歯学部：計画的な教員選考
- ⑥薬学部：薬剤師養成教育の新機軸と入学者確保に向けた薬学部の魅力・発信力の強化
- ⑦看護学部：設置から4年間の検証結果等を踏まえた教育の質保証と教員組織の充実
- ⑧全学的教育改革の支援活動
- ⑨教学 IR (Institutional Research) の充実
- ⑩教養教育、準備教育に係る教育見直しと高大連携の改善
- ⑪実習関連機器等（教養教育センター）の年次更新
- ⑫シミュレーション教育環境の整備
- ⑬矢巾キャンパス施設視聴覚機器の計画的更新（6か年計画4年目）
- ⑭入試制度改革の推進と戦略的な学生募集活動
- ⑮古書・貴重書の修復・保管
- ⑯地域への情報発信
- ⑰蔵書構築マニュアルに則した図書館運用、プランに則した収書及び適正な在庫配置への変換
- ⑱社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動の推進
- ⑲学生支援体制の推進
- ⑳学生のキャリアビジョンを上げ、希望する就職を実現するための支援
- ㉑医療専門学校の入学生確保と国家試験合格率の高位維持

3. 補助事業及び委託事業関係

- ①医歯薬総合研究所研究施設における支援体制の整備
- ②日本災害医療ロジスティクス研修
- ③災害時実践力強化事業
- ④災害医療研修会
- ⑤いわての師匠事業
- ⑥東北メディカル・メガバンク計画
- ⑦岩手県ドクターヘリ運航事業
- ⑧岩手県こころのケアセンター事業
- ⑨いわてこどもケアセンター運営事業

4. 診療関係

- ①医師の時間外労働規制に対する取組
- ②病院運用の効率化に向けた取組の推進
- ③感染症対策センターの運用
- ④内丸メディカルセンター病院機能評価受審に向けた体制整備
- ⑤内丸メディカルセンター 1.5 テスラ MRI 装置更新
- ⑥内丸メディカルセンター中央臨床検査部システムの更新

5. 管理運営関係

- ①ガバナンスの向上等による運営基盤の強化
- ②事務局業務における RPA * 化の推進、RPA に精通した人材の育成
- ③ワークフローシステムの導入
- ④勤怠管理システムの導入
- ⑤借入金の返済と借入利息の支払い
- ⑥財政基盤確立のための財務分析
- ⑦本法人保有資産の有効活用
- ⑧矢巾・内丸学術ネットワーク更新
- ⑨教育関連ファイルの共有環境の整備
- ⑩標準的な内部監査手続きの徹底による法人運営の効率化に資する内部監査の実施

* RPA : Robotic Process Automation の略称で、パソコン上で行われる定型作業や繰り返し処理を人に代わり自動化する技術

6. 施設設備関係

- ①矢巾キャンパス東研究棟外壁修繕
- ②矢巾キャンパス照明制御システム更新
- ③内丸キャンパス創立 60 周年記念館防災設備更新
- ④矢巾町・町道 1 号線の拡幅工事に伴う B 敷地駐車場出入口の盛替工事
- ⑤矢巾キャンパス図書館災害（図書落下）防止対策

本法人は、2020 年度から 2024 年度にかけての主要計画を取りまとめ、2020 年 3 月に「Vision 2020-2024 学校法人岩手医科大学中期計画」を策定し、本年 3 月に計画の一部変更等を行いました。

令和 4（2022）年度事業計画は、この中期計画に基づき策定しています。詳細は、学内限定ホームページ（職員の皆様へ）で閲覧できますので、職員の皆様におかれましては、ぜひご覧ください。



岩手 DPAT オンライン研修会で 岩手医科大学 DPAT が講師を務めました

3月6日（日）、岩手県主催のDPAT（災害派遣精神医療チーム：Disaster Psychiatric Assistance Team）研修会に岩手医科大学DPAT（岩手DPAT統括の神経精神科学講座大塚教授、統括代理の同講座三條講師、岩手DPAT先遣隊の精神科病棟辛主任看護師、災害・地域精神医学講座の赤平特命助教）が講師を務めました。研修会は、オンラインで行われ、県内の精神科病院および精神保健福祉センター、こころのケアセンター職員など計32名が参加しました。

午前は、岩手県地域防災計画等の体制や岩手DPATの運営、災害医療概論やDPATの役割等についての講義が行われました。午後からは、岩手県沖地震が発生した想定で、EMIS（広域災害救急医療情報システム）やJspeed（情報共有サイト）のデモストレーション、本部設置された会場から本部活動について、解説しながらの配信、過去の同研修での演習動画を解説を交えながら配信するなど、オンラインでも実際の活動のイメージができるよう工夫されながら行われました。



本部活動訓練

臨床研修修了証授与式が挙行されました

3月16日（水）、附属病院10階大会議室において、令和3年度岩手医科大学附属病院臨床研修修了証授与式が執り行われ、2年間の臨床研修を修了した臨床研修医11名に対し、伊藤薫樹医師卒後臨床研修センター長より修了証書が授与されました。

今後は、修了者全員が専門医取得を目指し当院に在籍します。4月からは上級医として臨床研修医を指導する側となり、医師卒後臨床研修センターを強力にバックアップしてくれるものと期待されます。



修了証を受け取った臨床研修医

診療記録質的監査表彰式が挙行されました

3月22日（火）、附属病院10階大会議室において、診療記録質的監査表彰式が挙行され、福島診療情報管理委員長から良好な監査成績を収められた上位3診療科に賞状・トロフィー・賞品が授与されました。

附属病院診療情報管理委員会では、本院での適正な診療記録の記載・保存・利活用の促進、診療記録記載漏れや逸脱等の改善、記載内容の向上を目的に、診療記録監査委員会を立ち上げて「量的監査」および「質的監査」が行われてきました。

式では、福島診療情報管理委員長から「関係各位のご尽力もあり、短期間で一定の成果を挙げ、この度の病院機能評価認定の一助にもなりました。本活動はこれからも継続して参りますので、引き続きご尽力をいただき、次回の表彰を目指し更なるご努力を祈念いたします」と激励の言葉が述べられました。

受賞診療科

第1位	第2位	第3位
呼吸器外科	腎・高血圧内科	口腔外科



受賞診療科と診療情報管理委員会

名誉教授称号授与式が挙行されました

4月1日（金）、本部棟4階大会議室において、名誉教授称号授与式が行われました。式では、小川理事長が前衛生学公衆衛生学講座坂田清美教授及び前救急・災害・総合医学講座救急医学分野井上義博教授に名誉教授の称号を授与し、これまでの大学への貢献に対して感謝の言葉を送りました。



後列左から 酒井副学長、三浦副学長、佐々木医学部長
前列左から 小川理事長、井上名誉教授、坂田名誉教授、
祖父江学長

岩手医科大学医療専門学校入学式が挙行されました

4月5日（火）、医療専門学校上ノ橋校舎において、令和4年度岩手医科大学医療専門学校入学式が挙行されました。新型コロナウイルス感染症対策として、式には入学生のみが出席しました。

式では、三浦校長から「信頼される医療人となるため専門的な知識と技術、さらに医療人としてのあり方、人間性を身に付けてほしい」と式辞があり、小川理事長（佐藤歯科医療センター長代読）から「諸君の勉学が国民の健康を守ることに繋がる自覚をし、立派な歯科衛生士に成長することを期待する」と祝辞がありました。

入学生36名を代表して佐々木結羅さんは「本校の学生としての自覚を持ち、先生方のご指導を仰ぎ勉学に精進することを誓います」と宣誓しました。



佐々木さんによる入学生宣誓

高度看護研修センターの開講式が挙行されました

4月6日（水）、附属病院10階中会議室において、令和4年度緩和ケア認定看護師教育課程及び特定行為教育課程の開講式が合同で挙行されました。新型コロナウイルス感染症対策として、緩和ケア認定看護師教育課程の研修生はオンラインでの参加となりました。

式では、木村センター長から「切磋琢磨し合い、一日も早く幅広い知識を持った特定看護師、認定看護師として活躍いただけるよう期待しています」と式辞が述べられました。

緩和ケア認定看護師教育課程11名、特定行為教育課程8名の研修生を代表して、坂本祥子さん（特定行為）は「最新の知識と技術、エビデンスに基づいた水準の高い看護実践能力、判断力、思考力を習得できるよう研鑽を積みたい」と決意を述べました。



坂本さんによる研修生代表挨拶

岩手医科大学入学式が挙行されました

4月12日（火）、岩手県民会館大ホールにおいて、令和4年度岩手医科大学入学式が挙行されました。新型コロナウイルス感染症対策として、入学生及び教員のみ参加とし、参加が叶わなかった保護者に向けて、ライブ配信が行われました。

式は、国歌斉唱（感染対策のため演奏のみ）に始まり、各研究科・編入学生・学部の新入生312名に対する祖父江学長からの入学許可宣言がありました。研究科を代表して中西厚雄さん（歯学研究科）、学部を代表して小林瑠生さん（看護学部）から宣誓があり、その後、祖父江学長からの式辞及び小川理事長からの祝辞に続き、在学生を代表して学友会総務局委員長北御門健さん（医学部4年）から在学生歓迎の辞が述べられ、最後に校歌斉唱（演奏のみ）を行い、閉式となりました。

昨年度に続き、今年度も規模縮小の開催となりましたが、入学生は新たな門出の一步を踏み出し、期待に胸を膨らませているようでした。

令和4年度岩手医科大学入学生			
医学研究科博士課程	12名	医学研究科修士課程	3名
歯学研究科博士課程	12名	薬学研究科博士課程	1名
医学部編入学	4名	看護学部編入学	3名
医学部	123名	歯学部	32名
薬学部	32名	看護学部	90名



岩手県民会館大ホールで挙行した入学式



学部代表者による入学生宣誓

左から：小林瑠生さん（看護）、吉成太樹さん（医学）、小岩千紗さん（歯）、永島美来さん（薬）

地域包括ケア講座の野里 同 准教授が 日本褥瘡学会で大浦賞を受賞しました

この度、日本褥瘡学会より、論文「加圧部皮膚温の上昇が褥瘡発生に与える影響」で『日本褥瘡学会大浦賞』（優秀論文賞）を受賞しました。

これまでの研究で褥瘡発生の新たなリスクファクターとして深部体温の上昇が影響していることを明らかにしましたが、今回の研究内容はその予防方法に関する報告です。一般的に深部体温が上昇した際は頭部や腋窩部を冷却することが多いのですが、本研究では褥瘡予防の観点からどのようなケアが有効であるかを検証した結果、加圧部皮膚温を調整することが最も褥瘡予防に効果的であることが分かりました。この研究で得られた成果を臨床に還元し、より良いケアを提供できるよう、臨床の看護師の方々や諸先生方より御指導・御協力を頂きながら研究を進めていきたいと考えております。



最後に、これまで御指導して頂いた諸先生方、御協力して頂いた皆様方に深く感謝申し上げます。

（文責：地域包括ケア講座 准教授 野里 同）

泌尿器科学講座の五十嵐 大樹 助教が 日本泌尿器科学会でヤングリサーチグラント賞を受賞しました



令和4年4月22日に一般社団法人日本泌尿器科学会の第16回ヤングリサーチグラントを「蛍光多重免疫組織染色解析システムを用いた膀胱癌の腫瘍微小免疫環境における免疫プロファイリング」のテーマで受賞しました。本賞は、泌尿器科領域において独創的なテーマに取り組む全国の研究者に対して授与される賞であり、大変光栄に思います。

現在、免疫チェックポイント阻害剤を用いた治療が様々な癌腫で適応となっていますが、現在の標準治療において腫瘍の微小免疫環境は治療選択において加見されておらず、個々のがん種の腫瘍微小免疫環境を理解することは急務と考えています。

本研究は蛍光多重免疫染色法を用いた腫瘍微小免疫環境の解析となるため、腫瘍微小環境における各免疫担当細胞の空間的・距離的な理解も可能となり、腫瘍微小免疫環境における研究発展に大いに役立つものと考えます。本研究を通じて、将来患者さんに還元できるような医療に貢献できるようにこれからも精進したいと思います。

最後に、本研究におきましてご指導頂きましたがん研有明病院北野滋久部長、泌尿器科学講座小原航教授をはじめとする多くの方々に深く感謝申し上げます。

（文責：泌尿器科学講座 助教 五十嵐 大樹）

内科学講座血液腫瘍内科分野の前田 峻大 専攻医が 日本血液学会東北地方会で最優秀演題賞を受賞しました

この度、前田峻大先生が、第133回日本血液学会東北地方会（令和4年2月20日：仙台市）において、演題「Nivolumab療法中にCD8陽性Tリンパ球上のPD-1モニタリングを行った再発難治性古典的ホジキンリンパ腫症例」を発表し、最優秀演題賞を受賞しました。

現在免疫チェックポイント阻害剤であるNivolumabが多くの癌腫に対し投与されております。中でも最も効果の高い癌腫がホジキンリンパ腫で、免疫関連有害事象の出現する症例により抗腫瘍効果が得られることが知られております。今回、Nivolumab 投与により免疫関連有害事象（重症筋無力症/筋炎及び肝炎）を合併、一方で再発とcomplete metabolic response(完全寛解)を繰り返した難治性ホジキンリンパ腫症例を経験しました。この経過中にNivolumab非結合PD-1+CD8陽性Tリンパ球の経時的モニタリングを行うことで、免疫関連有害事象の発症や再発時期の予測、およびNivolumabの至適投与間隔を明らかにし、今回これらを報告しました。特にこれらの結果をもとに本症例でNivolumab治療を安全に継続する事が可能になった点が受賞につながりました。

前田先生は、先の3月に臨床と並行して注力されていた大学院での研究を終えられており、今後も臨床と研究に力を発揮されることを期待されております。

（文責：内科学講座血液腫瘍内科 講師 古和田 周吾）



表彰の栄誉

中央臨床検査部の高橋 敬太 主任臨床検査技師が 日本超音波医学会東北地方会学術集会で奨励賞を受賞しました

この度、令和4年3月6日に開催された第63回日本超音波医学会東北地方会学術集会において、「UGAPの測定分散因子と検者内および検者間再現性についての検討」の演題で研究発表を行い、奨励賞を受賞しました。同会は、超音波の医学的・生物学的応用に関する学術研究と福祉の向上に寄与する会として発足し、超音波医学の進歩・普及を図る歴史と伝統のある会です。近年、肥満人口の増加を背景として、非アルコール性の脂肪肝疾患および脂肪肝を成因とした肝臓の急増が公衆衛生上の問題となっています。これに対しultrasound-guided attenuation parameter (UGAP)は組織内を通過した超音波信号の減衰量から減衰係数を推定することで、脂肪肝の拾い上げを定量的かつスピーディに行うことができるアプリケーションです。本研究テーマは、このUGAPの脂肪肝診断能と測定精度について検証したものです。本研究により、UGAPの優れた脂肪肝診断能と統計学的に高い測定再現性が示されました。



高橋主任臨床検査技師、諏訪部教授

最後に、研究指導を頂いております臨床検査医学講座の諏訪部章教授、内科学講座消化器内科肝臓分野の黒田英克准教授、共同著者の先生方ならびに、本研究の遂行にご尽力頂きました中央臨床検査部の皆様にこの場を借りて深く感謝申し上げます。

(文責：中央臨床検査部 主任臨床検査技師 高橋 敬太)

定年を迎えられた教職員の皆様、 永い間お疲れ様でした



本年3月31日付で定年を迎え退職された皆様には、永い間岩手医科大学発展のためにご尽力をいただき、厚く御礼申し上げます。皆様の今後のご健勝を祈念いたします。

4列目	大川 義信 佐藤 仁 佐藤 浩二 川坂 浩義 松田 政彦 赤坂 昇治 遠藤 恵美子 中塚 瑞江 齊藤 典子 横井 紀美子 戸塚 久子 平田 洋介 松田 豪
3列目	佐々川 純子 梅原 照子 及川 弘美 高塚 和美 三上 優子 菊池 良枝 照井 貴美子 中村 一美 遠藤 優子 寺田 夏子 佐々木 志津子 佐藤 英子 二本木 壽美子 八重樫 章司
2列目	坂田 清美 佐々木 実 安保 博子 曲谷 地 加代子 藤沼 千春 伊藤 律子 大澤 扶佐子 安保 弘子 千葉 香 大森 美智子 井上 義博 滝川 康裕 鈴木 泰
1列目	高橋 真 田島 全学教育推進機構長 河野 薬学部長 三浦 副学長 祖父江 学長 小川 理事長 酒井 副学長 佐々木 医学部長 三浦 看護学部長 佐藤 看護部長

新任教授の紹介

令和4年4月1日就任

衛生学公衆衛生学講座

丹野 高三 (たんの こうぞう)

昭和45年11月30日
福島県いわき市出身



研究テーマ

- ・循環器疾患の疫学
- ・高齢者の疫学
- ・コホート研究

主な著者論文

- ・東北メディカル・メガバンク計画地域住民コホート調査研究
プロフィール (J Epidemiol 2021;31:65-76.)
- ・地域住民における牛乳摂取頻度と脳卒中罹患の関連
(Nutrients 2021;13:3781.)
- ・地域在住高齢者の主観的健康感と要介護認定の関連
(BMC Geriatrics 2020;20:328.)

趣味

音楽鑑賞

教職員への自己PR

歴史ある衛生学公衆衛生学講座の第6代教授を拝命し、身の引き締まる思いであります。私の主な研究テーマは、県民病である脳卒中和高齢者における要介護状態の予防です。大規模な人間集団を長期にわたって追跡するコホート研究という手法を用いてそれらの危険因子を明らかにし、予防医学、公衆衛生学の発展に貢献するとともに、得られた知見を地域や関係機関に還元し、岩手県民はもとより、国民の公衆衛生の向上に尽力して参ります。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

主な経歴

平成7年3月	筑波大学医学専門学群卒業
平成17年4月	岩手医科大学医学部衛生学公衆衛生学講座 助手
平成20年4月	岩手医科大学医学部衛生学公衆衛生学講座 嘱託講師
平成24年4月	岩手医科大学医学部衛生学公衆衛生学講座 准教授
平成25年1月	岩手医科大学いわて東北メディカル・メガバンク機構 臨床研究・疫学研究部門 副部門長(兼務)
平成31年4月	岩手医科大学医学部衛生学公衆衛生学講座 特任教授
平成31年4月	岩手医科大学いわて東北メディカル・メガバンク機構 臨床研究・疫学研究部門 部門長(兼務)
令和4年4月	現職

令和4年5月1日就任

微生物学講座分子微生物学分野

石河 太知 (いしかわ たいち)

昭和52年6月21日
秋田県大仙市出身



研究テーマ

- ・口腔細菌
- ・粘膜免疫
- ・扁平上皮癌

主な著者論文

- ・Uptake of nanotitania by Gingival Epithelial cells Promotes Inflammatory Response and Is Accelerated by Porphyromonas gingivalis Lipopolysaccharide: An In Vitro Study (Int. J. Mol. Sci. 2021 Jul 28;22(15):8084)
- ・The Role of Lactic Acid on Wound Healing, Cell Growth, Cell Cycle Kinetics, and Gene Expression of Cultured Junctional Epithelium Cells in the Pathophysiology of Periodontal Disease (Pathogens, 2021 Nov 18;10(11):1507)
- ・Laminins 411 and 421 differentially promote tumor cell migration via $\alpha 6 \beta 1$ integrin and MCAM (CD146) (Matrix Biol. 2014 Sep;38:69-83)

趣味

・旅行 ・読書

教職員への自己PR

令和4年5月1日付けで、佐々木実教授の後任として微生物学講座分子微生物学分野を担当させていただくことになりました。当分野は口腔細菌や生体の免疫反応を中心に扱っております。加えて、近年口腔細菌と全身疾患との関連が注目を浴びています。このような分野を担当することの責任の重さを日々感じております。これからも教育・研究・人材育成に全力を尽くしていきたいと考えております。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

主な経歴

平成17年3月	岩手医科大学歯学部 卒業
平成22年3月	岩手医科大学大学院 歯学研究科 修了
平成22年4月	岩手医科大学歯学部口腔微生物学講座 常任研究員
平成23年4月	カロリンスカ研究所(スウェーデン) 博士研究員
平成26年4月	岩手医科大学微生物学講座分子微生物学分野 助教
令和2年12月	岩手医科大学微生物学講座分子微生物学分野 講師
令和4年5月	現職

1. 2021年度補正予算について
2. ガバナンス・コードの実施状況に関する報告書の作成について
3. 中期計画の一部変更及び2022年度事業計画について
4. 2022年度予算について
5. 評議員の選任について

第4号評議員 山本 和博（新任）
（任期 2022年4月1日から2026年3月31日
他の評議員の残任期間）

6. 役職者の選任について

医学部副学部長 田島 克巳（新任）
医学部副学部長 佐々木 章（新任）
いわて東北メディカル・メガバンク機構機構長 佐々木 真理（再任）
いわて東北メディカル・メガバンク機構副機構長 福島 明宗（再任）
いわて東北メディカル・メガバンク機構副機構長 旭 浩一（新任）
いわて東北メディカル・メガバンク機構副機構長 石垣 泰（再任）
いわて東北メディカル・メガバンク機構副機構長 清水 厚志（再任）
（任期 2022年4月1日から3年間、但し福島いわて東北メディカル・メガバンク機構副機構長は同日から定年退職までの2年間）

7. 教員の人事について

統合基礎講座衛生学公衆衛生学講座 教授
丹野 高三（前 同講座 特任教授）
医学部呼吸器外科学講座 特任教授
出口 博之（前 同講座 准教授）
医学部心臓血管外科学講座 准教授
小泉 淳一（前 同講座 講師）
医学部総合診療医学講座 准教授
大間々 真一（前 医学部救急・災害・総合医学講座総合診療医学分野 講師）
統合基礎講座生理学講座病態生理学分野 准教授
成田 欣弥（前 同分野 講師）

医学部呼吸器外科学講座 講座内准教授
友安 信（前 同講座 特任准教授）
医学部内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野 特任准教授
長谷川 豊（前 同講座 特任講師）
（発令年月日 2022年4月1日付）

8. 学則の一部改正について

医学部、歯学部、薬学部における2022年度教育課程の再編に伴い、学則の別表1を一部改正することを承認した。

（施行年月日 2022年4月1日付）

9. 就業規則等の一部改正について

2017年4月の看護学部開設時、職員就業規則に設けた教育職員の定年退職等に係る特別条項を、対象職員の退職に伴い削除すること、2022年4月施行の改正育児・介護休業法において、有期雇用労働者の育児・介護休業の取得要件の1つである「引続き雇用された期間が1年以上である者」が撤廃されることから、臨時職員就業規則における当該条項を改正すること、これに伴い正規職員との均衡を図る観点から、職員の育児休業等に関する規程、職員の介護休業及び介護短時間勤務に関する規程における同様の条項を改正すること、また、再雇用職員の処遇を改善するため、現在無給となっている病気休暇を一部有給化することとし、再雇用職員の取扱いに関する規程を一部改正することを承認した。

（施行年月日 2022年4月1日付）

10. 附属病院規程の一部改正について

感染症対策センターの設置に伴い、附属病院規程を一部改正することを承認した。

（施行年月日 2022年4月1日付）

1. 理事の競業について
2. 岩手医科大学附属内丸メディカルセンター規程の一部改正について

内丸メディカルセンターの基本姿勢を先頭とした基本方針の並び替え及び文言の整理、当該センター長のガバナンス強化のための機動的な役割を担うセンター長補佐の配置、患者獲得による増収とサービス向上のための医科診療科への臨床腫瘍科、睡眠医療センターへの歯科放射線科の追加、歯科の組織の現状に則した見直しを行うこととし、当該規程を一部改正することを承認した。

（施行年月日 2022年4月1日）

3. 教員の人事について

統合基礎講座微生物学講座分子微生物学分野 教授
石河 太知（前 同講座 講師）
（発令年月日 2022年5月1日付）

岩手医科大学募金状況報告

本学の事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。
ご支援いただいた皆様のご協力に感謝の気持ちを込め、ここにご芳名を掲載いたします。
今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。
※ご芳名及び寄付金額は、掲載を承諾された方のみ紹介しています。

学術振興資金募金

第9回目のご芳名紹介です。(令和4年2月1日～令和4年3月31日)

■ 法人・団体等 (5件)

<1,180,000>

盛岡大通商店街協同組合 (岩手県盛岡市)

<800,000>

株式会社 日本眼科医療センター (宮城県仙台市)

<100,000>

株式会社 肉の横沢 (岩手県八幡平市)

カールツァイスメディテック 株式会社 (東京都千代田区)

<ご芳名のみ>

江渡商事 株式会社 (青森県青森市)

■ 個人 (8件)

<437,389,001>

<ご芳名のみ>

黄 傳明・若子 (専12,一般) 奈良 久枝 (医21)

<2,000,000>

木村 英敏 (歯11)

小野寺 耕 (医38) 木村 緑 (歯13)

<10,000>

佐柄 英人 (父母)

金野 頼子 (教職員) 千葉 俊美 (教職員)

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
圭 陵 会	253	116,257,220
在 学 生 ご 父 母	166	55,620,000
役員・名誉教授	26	28,980,000
教 職 員	31	5,660,000
一 般	18	461,769,001
法 人 ・ 団 体	149	76,345,481
合 計	643	744,631,702

(令和2年9月1日～令和4年3月31日現在)

■ 黄 傳明様・若子様からの遺贈寄付

この度、岩手医学専門学校第12期 (昭和17年) 卒業生の故 黄 傳明 (こう でんめい) 様のご令室にあたる故 黄 若子 (こう わかこ) 様より、公正証書遺言に基づく金437,389,001円のご寄付を賜りました。

黄様のご意思に基づき、学術振興資金として有効に活用させていただき、ご厚情に報いる所存でございます。格別のご支援に厚く御礼申し上げます。

～黄 若子様のメッセージ (公正証書より抜粋)～

財産の大半については、医学の道に生きた亡夫黄傳明の意思を引き継ぎ、亡夫の母校である学校法人岩手医科大学へ寄付したいと思いました。大学施設の設備充実を目的とした学術振興のために使われることを希望します。

社会貢献の気運が高まる中、税制上の優遇措置を受けることができる学校法人への「遺贈寄付」と「相続財産からの寄付」が広がりを見せています。ご相談の際は、法人事務部企画調整課 (内線5436、5437) までお問い合わせください。

創立120周年記念事業募金

第45回目のご芳名紹介です。(令和4年2月1日～令和4年3月31日)

■ 法人・団体等 (1件)

<ご芳名のみ>

医療法人 みどり歯科医院 (秋田県能代市)

■ 個人 (2件)

<100,000>

細川 栄子 (教職員)

<ご芳名のみ>

高橋 真 (教職員)

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
圭 陵 会	1,101	657,315,089
在 学 生 ご 父 母	930	543,622,000
役員・名誉教授	100	124,170,000
教 職 員	268	35,972,000
一 般	146	48,785,010
法 人 ・ 団 体	400	1,197,384,000
合 計	2,945	2,607,248,099

(平成26年6月1日～令和4年3月31日現在)

中央臨床検査部(生理機能・超音波センター)

病院移転を機に、超音波装置を有効活用する目的で超音波検査を集約し『超音波検査センター』が設けられました。諏訪部章センター長、田代敦・黒田英克の両副センター長のもと、臨床検査技師18名と受付事務員2名が配置されています。心電図(安静時、運動負荷、ホルター)、呼吸機能検査、四肢血圧脈波検査、超音波検査(心臓、頸動脈、下肢動静脈、腹部、泌尿器)、脳波検査、誘発電位検査、誘発筋電図検査等、様々な分野の生理機能検査を行っています。また、診療科や手術室への出向検査にも携わっています。当センター設立により臨床医とのディスカッションが活発になり、各診療科と連携が取り易くなったと感じています。さらに適切で質の高い検査の提供とスキル向上を図るために各種学会の認定資格を取得し専門知識を

高めています。これからは臨床のニーズに合わせて柔軟に対応し、チーム一丸となり患者さまにとって安心・安全な検査を目指し日々努めてまいります。

(副技師長 嘉村 幸恵)



EHCU病棟、一・二・三次外来

県内唯一の高度救命救急センターであり、重度多発外傷、広範囲熱傷、中毒、重度四肢外傷、重症敗血症などの多岐に渡る患者さんを24時間体制で受け入れ、「岩手救急の最後の砦」としての役割を担っています。平成23年から運航開始となった岩手県ドクターヘリも今年10年目を迎えました。「空飛ぶ救命室」として県内どこでも25分以内で到着可能であり、迅速な診断・治療を開始し、救命率の向上につながっています。様々な疾患に対応できるよう人材育成にも力を入れており、フライトナース、DMAT隊員、トリアージナースとして幅広く活躍しています。

突然の発症に患者さんやご家族は大きな不安を抱えて来院します。患者さんに寄り添い、専門的知識を深めながら安心して医療が受けられるよう努めています。

そして入院時から患者さんの未来を見据え、早期のリハビリや退院支援の介入を行い、住み慣れた自宅や地域に少しでも早く帰せるよう多職種とも連携を図りながらチーム一丸となって取り組んでいます。

(主任看護師 高橋 智恵子)



岩手医科大学報編集委員

小川 彰	佐藤真結美
影山 雄太	工藤 静子
松政 正俊	塩山 亜紀
齋野 朝幸	及川 弘美
藤本 康之	安保 淳一
白石 博久	佐々木忠司
成田 欣弥	畠山 正充
西里 真澄	藤村 尚子
佐藤 仁	武藤千恵子
伊藤 奈央	高橋 慶
藤澤 美穂	

編集後記

今年は春先から初夏にかけて、寒暖の差が大きかった気がしますが、皆様体調はいかがですか？コロナ禍になってから始めた実家の家庭菜園では、昨年植えたキウイのつるが勢いよく伸び始め、今年もナス、トマト、じゃがいもを育て始めました。昨年は肥料を与えずに上手く育たなかったじゃがいもが、今年はどのくらい大きく実ってくれるか楽しみです。梅雨が明ければ、本格的な夏の到来です！バランスのよい食事と体を動かす事を生活に取り入れて、季節の変化に対応したいですね。

(編集委員 塩山 亜紀)

岩手医科大学報 第541号

発行年月日/令和4年5月31日

発行/学校法人岩手医科大学

編集委員長/小川 彰

編集/岩手医科大学報編集委員会

事務局/法人事務部 総務課

TEL 019-651-5111 (内線5452、5453)

FAX 019-907-2448

E-mail:kouhou@jiwate-med.ac.jp

印刷/河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp